

4月



4travel.jp より引用



あの日のあの川 リレー日記 ～第55話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第55話主人公 榎本開途

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県小櫃川・矢那川)

「イカダで川下り」

いつのこと？：小学生

どこの川？：二級水系 小櫃川

皆様こんにちは。山倉くんからバトンを受け取りました。筑波大学白川研究室の榎本開途です。記憶の薄れている幼少期のことを必死に思い出しつつ、川などの自然にかかわって印象的だったことについて書きたいと思います。しばらく、お付き合いください。

幼少期は、家にあるキャンピングカーに乗って海・森・川などによく遊びに行きました。子供にとってはとても大きな車で、アメリカ製の車だったためドアを開けるボタンが堅すぎて、押すことが大変だったことを今でもよく覚えています。海では、シュノーケリングや投釣り、キャンプ場では虫取りや魚釣り、料理をして過ごしていました。大自然の中では、初めてみるものやなんだかよくわからないものまでたくさんあり、夢中になって図鑑とにらめっこを繰り返した日々でした。そのなかで、印象的だったことをひとつ思い出しました。夏休みに父とキャンプ場を散歩している途中で、道端にフランクフルトが落ちていました。近くで BBQ をしている大人たちがいたので、きっと料理中に落としてしまったものだろうと思いました。しかし、よく見てみるとうねうねと少し動いていました。近づいてみるとフランクフルトではなく生き物で、15cm ほどの大きなナメクジでした。家の近くでよくみるナメクジは、大きくても5cm ぐらいだったので、とても驚きました。幼いながらに、知らないものはたくさんあると体感しました。

ここからは、川との記憶について書いていきます。小学 4 年生のころ、手作りのイカダで川(小櫃川)を下るというイベントに参加しました。当日集まったのは、小中学生が20名ほどでした。イカダは、市立少年自然の家キャンプ場で作りました。職人の方々のご指導のもと、キャンプ場近くにある竹林や森から切り出した竹と木材、ゴムチューブと釘や紐を使って組み合わせて作りました。翌日に、百目木公園近くにある川岸からイカダにのって出発しました。川下りの途中では、川に落ちる人や川の石でイカダの下にあるチューブが破裂するなどのハプニングがありました。ゴール地点にたどり着いたのは、出発から2~3時間ほど後でした。このイベントの内容は、すっかりトム・ソーヤ気分というタイトルで地域の新聞に取り上げられていました。手作りのイカダを作ったことや川下りをしたことで、トム・ソーヤの冒険の一部を体験できたような気がして、思い出に残っています。

私は、家の中で遊ぶことよりも、外で自然に触れていることが多い子供でした。最近の子供達は、スマホの普及によって川などの自然に触れる時間が少なくなっているのではと思います。台風やゲリラ豪雨など水害のニュースが多くなったことも、理由の一つかもしれません。危ないものには近づかないことも大事ですが、ときにはリスクを負うことも必要です。せっかく自然豊かな日本に生まれたなら、その環境を活かして色々と体験してほしいなと思います。そして、自然と関わる子どもたちが増えることを願っています。最後まで読んでいただきありがとうございます。

(次は鎌田一輝さんにバトンを託します)